

R5年度 ケアマネ連絡会 地域課題の取り組みについて

ケアマネ連絡会では、R3年度からの地域課題B・C群（課題を明らかにする）6つの課題について、優先順位を決めて、取り組んできた。

取り組み計画の優先順位は次のとおり。

- ① 地域生活支援拠点の機能の整理
- ② GHを望まない人の一人暮らしの支援の問題
- ③ 社会資源の南北差
- ④ 計画相談、主任相談員、委託相談等の役割や相談体制の在り方
- ⑤ 地域社会での障害児の育ちを支える包括的支援の在り方（インクルーシブな視点で）
- ⑥ 就労アセスメントの在り方

① 地域生活支援拠点の機能の整理

取り組みの方向性 ⇒地域診断をする、市や福祉計画と擦り合わせた上で

≪経過≫ 具体的な課題を出し合うとした。

5月 拠点の課題どのように取り組んでいくか

6月 拠点とは何か、機能は何か、受け入れ先の確保必要か？

今後の準備、話し合う論点、取り掛かれそうなこと

7月 緊急など実情を把握する手段どのように

8月 どの機関からヒアリングするか ⇒案) 相談事業所・提供事業所・家族会等

9月 日頃のケースから、専門的対応が必要な方への支援は整っているのか？

10月 既存の「自立生活訓練事業」一人暮らしの体験の場に活用できるか検討

⇒結果、難しい 課題：一人暮らしできるか、見極める場や機会がない。

地域いこうを進めるのに、GHだけでは難しい。

11月 こどもから大人のステージまで、時系列に地域移行を想定し、どのような状況で、どんなことに困るか見える化した。

② 児童養護から ② 入所施設から ③ 病院から の地域移行

12・1月 課題の絞り込みと共有

≪その他の取り組み≫

○第7期福祉計画第3期児福祉計画策定にあたり、拠点整備や基幹設置を意識した中で、地域の実情と擦り合わせる機会ももてた。

○一部センター業務と被るが、地域生活支援拠点の理念の共有や理解を目的として、事業所連絡会を企画したり、スキルアップ研修を開催。

○相談支援事業所への巡回にあたっては、事前に拠点の話題を準備し、相談支援専門員が担っているケースから地域課題を意識してもらえよう試みた。

② GHを望まない人の一人暮らしの支援の問題

取り組みの方向性 ⇒地域生活支援拠点にも関連して、暮らしの場や暮らし
の中の対応について話の整理をし、分析、共有できれば。

《経過》 部会もつながるとよい。

○10月のケアマネ連絡会にて、拠点の整理として②に関して話題にした。

既存の事業の活用も検討。結果、一人暮らし出来る場や機会がない。地域いこうを進めるのに、GH
だけでは難しいという見立てとなった。

③ 社会資源の南北差

取り組みの方向性 ⇒地域診断へ、関係機関が知ったり考える機会を設ける。

《経過》 福祉計画など将来の在り方を考える際の資料とする。

○第7期福祉計画第3期児福祉計画へ向け、拠点の機能の整理等に絡めて、ケアマネ連絡会から意見と
して挙げることができた。

④ 計画相談・主任相談員・委託相談等の役割や相談体制の在り方

取り組みの方向性 ⇒コア会議や相談支援専門員への研修などの取り組みへ意識的に入れ込んだり、
ケアマネ連絡会・障害者相談支援センターの取り

《経過》 組みの中で検討していく。

○機能強化会議の機会には、出来る限り主任相談支援専門員の参加を促すよう市と共に働きかけた。

○「事業所連絡会」や地域ごとの「情報交換会」の企画には、主任がキーマンとなれるよう意識して行
った。

⑤ 地域社会での障害児の育ちを支える包括的支援の在り方

取り組みの方向性 ⇒こども部会、ケアマネ連絡会で課題を整理しながら、

《経過》 継続して検討していく。

○全体協議会では、こども部会が中心となり「インクルーシブ教育・社会に向けた取り組み」をテーマ
をとりあげ、講演とシンポジウムを行った。

○こども部会では、地域や家庭に向け合同説明会を開催し、放デイの役割やインクルーシブな視点を発
信する機会がもてた。

○センター分類にはなるが、スキルアップ研修では、地域に中で共に暮らしていくために子供時代から
のインクルーシブな視点の大切さをテーマに含んだ研修を開催できた。

○ケアマネの拠点の機能の整理の中で、地域移行を想定し、新たに母子や家庭を地域の中で支えるため
の地域資源の見直しに繋がる気づきがもてた。

⑥ 就労アセスメントの在り方

取り組みの方向性 ⇒検討の必要性はありそう。どの場で検討するか。

《経過》

○しごと部会や他圏域から、「就労選択支援」について関心の声は聞かれる。

○今年度のケアマネ連絡会では、取り組みはできていない。